

行政事業レビューシート (環境省)

事業名	モデル地域における未利用水・未利用エネルギーの有効活用検証		担当部局庁	水・大気環境局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成21年度～平成22年度		担当課室	1. 大気生活環境室 2. 地下水・地盤環境室		1. 室長 大村 卓 2. 室長 宇仁 菅		
会計区分	一般会計		施策名	3-2 大気生活環境の保全				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	ヒートアイランド対策大綱(ヒートアイランド対策関係省庁連絡会議決定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	①都市において未だ活用されていない水等の有効資源の賦存量等を把握しこれを代替資源として活用する。 ②人工排熱等を有効利用することにより都市における排熱量を削減し、ヒートアイランド現象の緩和を図る。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	1. 未利用資源として清掃工場の排熱蒸気を近隣の地域冷暖房施設に接続して利用することに係る具体的な検討(フィージビリティスタディ)を行い、全国的に汎用性があり、実効性を有するシステム案の検討を行った。 2. 積雪の多い地域では、地下水を利用した消雪が未だに不可欠であるが、それに伴い地盤沈下も避けられない状況となっている。少しでも地盤沈下防止対策を考える上で、モデル地域を選定し、過去の地盤沈下の発生状況や地下水位・揚水量資料、また地下水の流域的視点に基づく水文観測などから、地下水利用と地盤沈下の関係を分析した。さらに深層における地質状況を明らかにし、未利用と考えられている帯水層の性状を把握し、地盤環境へ影響を与えない地下水利用方法を検討した。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算の状況	当初予算	-	34	34	0	0	
		補正予算	-	0	0	0		
		繰越し等	-	0	0	0		
		計	-	34	34	0	0	
	執行額		-	23	13			
執行率(%)		-	67.6%	38.2%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (年度)
	調査検討事業であり、数値で定量的に示せない。		成果実績	-	-	-	-	-
			達成度	%	-	-	-	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	調査検討事業であり、数値で定量的に示せない。		活動実績 (当初見込み)	-	-	-	-	-
						()	()	
単位当たりコスト	-		算出根拠	-				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	環境保全調査費	0	0	本事業は平成22年度にて終了。				
	計	0	0					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	－	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ・使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>1. 有識者による検討会を開催し、検討会での助言を踏まえた上で、技術的検討を行った。また、検討会前には環境省担当官が請負先と十分な打合せを行った。</p> <p>2. 業務請負者がモデル地域において、該当する自治体から、地下水利用状況・地質状況、水文資料等の資料の収集及び深層地域の地質調査等により、地下水揚水量と地盤沈下の関係について、環境省担当官と十分な調整を行い検討した。また、それらにより得られた情報から、未利用水の利用可能地域の検討及びそれ以外の地域における、更なる地盤沈下の防止のための方策について検討した。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
廃止	当初の目的を達成したため、事業終了		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
平成22年度限りで廃止とする。			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入

環境省
13百万

- ・業務内容の決定
- ・業務実施者との契約

【総合評価入札】

A. 日本設計株式会社
8百万円

- ・清掃工場を地域冷暖房に活用した場合の
フィージビリティスタディ

【総合評価入札】

B. (株)エオネックス
5百万円

- ・深層の地質の解明、および帯水層の把握とその利用の可否
- ・地下水の流動状況の把握

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単
位: 百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の
 金額が支出され
 ている者につい
 て記載する。費
 目と使途の双方
 で実情が分かる
 ように記載)

A.日本設計株式会社			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	平成22年度清掃工場排熱活用による都市の熱環境改善実地基礎調査	8			
計		8	計		0
B.(株)エオネックス			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	平成22年度 流域的視点から捉えた健全な水環境の確保に向けた検討業務	5			
計		5	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	日本設計株式会社	平成22年度清掃工場排熱活用による都市の熱環境改善実地基礎調	8	1	38.1

B

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)エオネックス	平成22年度 流域的視点から捉えた健全な水環境の確保に向けた検討業務	5	3	89.0